

第15回全国川サミット in 揖斐川 報告書

岐阜県 揖斐川町

I. 開催概要

1. 全国川サミットとは

一級河川の名を名称にする市区町村や、一級河川にゆかりのある市区町村が全国から集い、「川と流域との関わり」や「より良い川との共生」を探り、年に1回、川にまつわるイベントを行うことで、連携を深め、河川愛護の精神を共有することを目的としている。この全国川サミットは、平成4年に富山県庄川町（現砺波市）からはじまり、今年で15回目を迎える。

これまでの開催地

回数	開催地	開催テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぶ
第2回	北海道鶴川町	きらめきリバータウン —川と人の未来を求めて—
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり —川は命、未来の子供たちへ引き継ごう—
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち —ひと・まち・川・ちょっと素敵な物語—
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第7回	宮崎県北川町	思いでいっぱい 不思議がいっぱい —川を彩るホタルの光が子供たちへの贈り物—
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ —それは川から始まる—
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい —ちょっと素敵な川家族—
第10回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり —ともに創ろう川の未来水の未来—
第11回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわいの川 ～都市の中の川を考える～
第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝える ふるさとのメッセージ ～水は生命の源～
第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！河川環境
第14回	兵庫県猪名川町	清流とともに暮らす ～ええやん 猪名川 50年～

2. 揖斐川町開催の意義

平成4年より始まった全国川サミットは、今年で第15回目を迎え、岐阜県揖斐川町で開催されることとなった。

現在の揖斐川町は、平成17年1月31日に旧揖斐川町、谷汲村、春日村、久瀬村、藤橋村及び坂内村の6町村が合併し誕生した町で、木曾三川のひとつ、一級河川揖斐川の幹線流路延長121kmのうちその上流半分を占める、その名のおり「川のまち」です。

その母なる清流揖斐川に町名を求めた揖斐川町では、「合併まちづくり計画」において新町の将来像を「自然と歴史が育む ふれあいと活力のある健康文化都市」と定め、「自然にやさしい環境共生のまちづくり」を施策の柱のひとつとして位置づけています。

折しも平成19年度の完成をめざし現在建設中の徳山ダムは、本年秋の試験湛水を目前にひかえ、完成すればその規模は総貯水容量日本一の雄大なダムとなります。

人と自然との共生が求められる今後、川面に暮らし、川とともに生きる揖斐川町を発信源に、参加者それぞれの立場からより良い川との共生を探る絶好の機会と捉え、今回の開催に至った。

3. 開催目的

◆新揖斐川町の一体感の醸成

「全国川サミット in 揖斐川」の開催は、合併後1年を経過し、本格的なまちづくりに向けて地域がまとまり、動き出し始めた揖斐川町において、揖斐川という地域を越えた共通の財産を再認識することによって、町民の一体感の醸成をねらう。

◆徳山ダム試験湛水を目前に、より良い川との共生を探る

「利水」と「治水」を目的に、平成19年度に完成を予定している徳山ダム。完成すれば総貯水容量6億6千万トンと日本一の雄大なダムとなる。揖斐川町では、揖斐川上流に暮らす責任と誇りをもって、先人から受け継いだ清流を守りつつ、この新しい水辺空間とのより良い共生方法を探っていく。川とともに生きる揖斐川町の姿や取り組みを全国にPRすることで、参加される自治体関係者それぞれの立場から川とのつきあい方を考える機会とする。

◆揖斐川とともに生きてきた伝統文化を尊重し、新たな文化活動を育む

川サミット記念事業として開催される町民手作りによる創作オペレッタ「水神」では、揖斐川流域に暮らす人たちの熱いメッセージを歌と芝居によって表現する。揖斐川町に受け継がれる甚兵衛と岡島ヶ淵の河童の物語を題材にして、川と自然を守ることが、人の心の豊かさを生み出すものであるということを、全国のサミット参加自治体とともに共有することで、河川愛護の精神を全国に発信するとともに、町民の文化活動の育成に努めていく。

4. テーマ

川面に暮らし 川とともに生きる

II. 実施内容

1. 全国川サミットに向けた活動

本年の全国川サミットは、谷汲サンサンホールにて開催される「第15回全国川サミット in 揖斐川～河川愛護の集い～」をシンボルイベントとし、記念事業として創作オペレッタ「水神」や「徳山ダムふるさと湖底コンサート」などが開催されることとなった。

7月28日（金）から30日（日）の3日間にかけて開催されるこのイベントを、単に期間中だけのものにならないためにも、川について考える事前活動として各種事業に取り組んだ。

(1) 徳山ダム出前講座

揖斐川町内の小中学校を対象に、独立行政法人水資源機構 徳山ダム建設所の協力を得て「徳山ダム出前講座」を開催した。

平成19年度の完成をめざし現在建設中の徳山ダムについて、身近な水の話から始まり、洪水の恐ろしさやダムの役割など、生徒児童にもわかりやすく紹介していただいた。

希望する学校によっては実際に現地に赴き、建設中のダム本体や大型の工事用車両などを見学した。

開催実績	平成18年5月22日	久瀬小学校
	平成18年5月25日	坂内小中学校
	平成18年6月8日	春日中学校
	平成18年6月14日	揖斐小学校・揖斐川中学校
	平成18年6月16日	春日小学校・谷汲中学校
	平成18年6月27日	大和小学校



(5月25日 坂内小中学校)



(6月14日 揖斐小学校)

(2) カワゲラウォッチング

揖斐川町教育委員会及び揖斐川町環境課と連携して、町内の小学校を対象に、総合的な学習の時間を利用した水生生物調査（カワゲラウォッチング）を実施した。

教材は、財団法人 河川環境管理財団発行の「川の生き物を調べよう」を用い、子どもたちに身近な河川に対する関心と、河川愛護の精神の醸成を図った。

調査を行った小学校のうち2校（坂内小学校・久瀬小学校）については、7月29日（土）に開催された「第15回全国川サミット in 揖斐川～河川愛護の集い～」において、参加自治体や関係機関、また多くの観客の前でその成果を発表した。

実施実績	平成18年5月30日	久瀬小学校
	平成18年6月8日	揖斐小学校
	平成18年6月13日	北方小学校・大和小学校
	平成18年6月20日	長瀬小学校
	平成18年6月21日	清水小学校
	平成18年6月28日	小島小学校
	平成18年7月4日	坂内小学校



(6月20日 長瀬小学校)



(5月30日 久瀬小学校)



(6月21日 清水小学校)



(6月13日 北方小学校)

(3) 既存の環境取り組み活動への支援

地元ボランティアや自治会、NPO法人や漁業協同組合などが取り組む既存の河川環境保護活動について、「全国川サミット関連事業」と位置づけることで、行政が積極的な支援を行える環境を整え、活動の定着化や規模拡大をねらった。

月 日	事業名	事業主体	事業内容	支援内容
4月20日 (木)	カワニナ放流事業	・地元ボランティア	地元ボランティアが主体となって、揖斐川地域6校の小学生がホタルの幼虫のえさとなるカワニナ(350kg)を身近な河川や用水路などに放流する。	・カワニナ購入支援(揖斐川町) 【事業費:376千円】
5月28日 (日)	揖斐川流域 クリーン 大作戦	・NPO法人 いびがわみずみず エコステーション ・揖斐川中部漁業協 同組合 ほか	NPO法人や漁協等が主催で行う河川清掃。町内全域の揖斐川周辺において河川清掃を行い、終了後は稚鮎の放流などをおこなう。	・揖斐川町環境課によるゴミ収集 処理に関する調整 ・サミットPRのぼり設置
7月中旬 (各地区)	環境 美化デー	・各地区自治会	住民が、自治会の単位で周辺の河川、用水、道路清掃などを行う。	・揖斐川町環境課によるゴミ収集 処理に関する調整 ・サミットPRのぼり設置



左上：カワニナ放流
(写真は町内桂川・大和小学校の様子)
右上：揖斐川流域クリーン大作戦
(写真は揖斐川地区、岡島橋下流の様子)
左下：環境美化デー
(写真は春日地区の様子)

2. 第15回全国川サミット in 揖斐川

一級河川名を名称とするあるいは一級河川にゆかりのある全国の市区町村から以下の参加を得て、7月28日（金）から30日（日）にかけて揖斐川町で開催された。

【参加団体】

全国川サミット連絡協議会（参加9自治体）

北海道むかわ町、東京都江戸川区、岐阜県白川町、兵庫県加古川市、兵庫県猪名川町、兵庫県たつの市、奈良県十津川村、宮崎県北川町、岐阜県揖斐川町

揖斐川流域自治体（参加12自治体）

岐阜県大垣市、瑞穂市、本巣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、安八町、大野町、池田町

(1) 7月28日（第1日目）

① 揖斐川流域視察（岐阜県海津市：国営木曾三川公園 木曾三川公園センター）

初日、国内各地から参加していただいた全国川サミット連絡協議会の市区町村を対象に、岐阜県海津市の「国営木曾三川公園 木曾三川公園センター」を視察した。

翌日に開催される「徳山ダムふるさと湖底コンサート」を含め、揖斐川の最上流域から最下流域に至るまでの状況を参加していただいた自治体関係者に視察していただき、揖斐川流域の人々がどのようにして川の恵みを楽しみ、また川を治めてきたかを理解していただくための趣旨であった。



（木曾三川公園センターでの視察風景）

現地においては、国土交通省中部地方整備局木曾川下流工事事務所に協力いただき、同事務所公園課長による説明が行われた。宝暦治水や明治改修など、治水の歴史や伊勢湾台風の猛威の状況、また、現在の河川改修や河川環境整備の状況など、資料をもとに解説していただいた。併せて、同公園内の展望タワーから、木曾三川下流域の様子や広大な濃尾平野の様子などを視察した。

② 全国川サミット連絡協議会総会

今回の全国川サミットに参加している9団体の代表が出席し、全国川サミット連絡協議会の総会が揖斐川町谷汲文化会館で開催された。

【総会内容】

- 1 会長あいさつ 全国川サミット連絡協議会会長 揖斐川町長 宗宮孝生
- 2 参加状況報告
- 3 議 題

《報告事項》

- 報告第1号 第14回全国川サミット in 猪名川事業報告について
- 報告第2号 第14回全国川サミット in 猪名川収支決算について

《協議事項》

- 協議第1号 第15回全国川サミット in 揖斐川事業計画（案）について
- 協議第2号 第15回全国川サミット in 揖斐川収支予算（案）について
- 協議第3号 第15回全国川サミット in 揖斐川共同宣言（案）について
- 協議第4号 今後の全国川サミット開催予定について



(全国川サミット連絡協議会総会)

(2) 7月29日（第2日目）

第15回全国川サミット in 揖斐川～河川愛護の集い～（揖斐川町谷汲サンサンホール）

揖斐川町谷汲サンサンホールを会場に「第15回全国川サミット in 揖斐川～河川愛護の集い～」を開催した。当日は、ソプラノ歌手の下垣真希氏による「河川愛護のトークとミニコンサート」、揖斐川町内小中学生による「河川研究事例の発表」、サミット参加自治体でもある兵庫県猪名川町による「河川取り組み事例の発表」などを行い、最後に「全国川サミット共同宣言」を採択した。

また、会場内では、国土交通省中部地方整備局から木曾川上流河川事務所、越美山系砂防事務所、横山ダム工事事務所や、岐阜県、独立行政法人水資源機構徳山ダム建設所のブースが設けられた。

【参加者状況】

- 参加人数 約500人
- 主な内訳 来賓等20人、参加自治体（流域含む）関係者50人、地元町議・自治会長等50人、学校関係者（小中学生含む）30人、一般客350人



(会場の様子)



(出展ブースの様子、木曾川上流工事事務所)

①河川愛護のトークとミニコンサート

ソプラノ歌手の下垣真希さんによる「河川愛護のトークとミニコンサート」開催した。下垣さんは、環境大国といわれるドイツにおいて、コンサート活動のかたわら5年半、ドイツ国際ラジオ局のDJとしても活躍された方で、環境問題に造詣が深く、現在、音楽活動はもとより、名城大学大学院、金城学院大学、名城大学で講師をなされ、「揖斐川水源地域ビジョン策定会議」の委員としても揖斐川町にゆかりがある。下垣さんの豊富な経験と知識を、歌と織り交ぜ、観客に披露願った。



【演奏曲目】

- 1 故郷 (ふるさと)
- 2 浜辺の歌
- 3 どじょっこ ふなっこ
- 4 七つの子
- 5 ます
- 6 ある晴れた日に
- 7 夏の思い出
- 8 日本の四季メドレー
(村祭り 雪の降る街を 花)

②小中学生による河川研究事例の発表

揖斐川町内小中学校3校の生徒児童による河川研究の成果が発表された。小学校については、揖斐川町立坂内小学校と揖斐川町立久瀬小学校の2校により、総合的な学習での取り組みや、カワゲラウォッチングなどの成果を発表した。また、揖斐川立揖斐川中学校については、総合的な学習で「揖斐川と命」を全校テーマに、生徒が学年ごとに課題を絞って取り組んでいるが、その中から、1年生が探求テーマとした「揖斐川を知る」についてその成果を発表した。

コメンテーター役を下垣真希さんに務めていただき、引き続き講評を頂いた。

1. 揖斐川町立坂内小学校（発表：8人）

【テーマ：ふるさとの川から学ぶ】

坂内小学校と、身近な河川である揖斐川の支流、坂内川の紹介から始まり、6年生の総合的な学習「坂内川を美しく」、4・5年生の総合的な学習「浄水場と下水処理場の見学」及び全校活動で取り組んだ「カワゲラウォッチング」について、その成果を発表した。

6年生による「坂内川を美しく」では、見た目はきれいな坂内川でも、よく見るとゴミが落ちていることもあり、家の人に聞いてみると「昔はもっときれいだった。」と聞いて驚き、もしも汚れているならば、もっと坂内川きれいにしたいと、各地区の水質検査とゴミ調査を行った。結果、水質調査では良い結果がでたが、ゴミが落ちていることもあった。

坂内小学校では、地域の住民と協力してクリーン作戦や、ポイ捨て禁止の手作り看板なども立てかけており、住民や釣客への啓発活動を行っているが、「そのような活動を根気強く続けていき、美しい坂内川を守り続けていきたい。」と発表した。

4・5年生による「浄水場と下水処理場の見学」では、坂内に住む人たちが水とどのような関わりを持って生活しているのかを調べるために、『飲み水はどこから来るのか』という視点から浄水場を見学し、『使った水はどこに行くのか』という視点から下水処理場を見学し、その内容や感想を発表した。

浄水場では、坂内地域内の黒津谷から取水し、飲み水になるまでの過程と、機械が壊れたときにはどのような対応をとっているのかなどを見学し、下水処理場では、汚れた水をいくつかの槽や微生物を使ってきれいにし、また坂内川へ返すまでの仕組みを学んだ。発表した生徒は、「苦労して作った飲み水を大切にしたい。」と感想を言い、また、「使った水をきれいに川に戻しているのが分かって安心した。」と発表をした。

全校生徒で取り組んだ「カワゲラウォッチング」では、7月4日に坂内川で行い、水温や見た目の水質を確認し、生物調査ではカワゲラ、沢ガニ、カゲロウなど、多くの生物を確認することができ、そこに生きる生物から見る水質等級は1級ということが



が確認できた。また、調査の終了後は、みんなで水遊びをし、美しい坂内川を体感した。

最後には、「この美しい坂内川を守るためにも、クリーン作戦など、今までの活動を続けていき、みんなで協力して川を守っていききたい。」として発表を締めくくった。

（坂内小学校による発表）

2. 揖斐川町立久瀬小学校（発表：16人）

【テーマ：川で遊び 川で学び 森を育てて 川を守る】

久瀬小学校の児童は、総合的な学習の時間やクラブ活動の中で、生徒自ら苗木を育て、山へ植樹をする活動を行っている。今回の発表では、カワゲラウォッチングやストーンアートをとおしてふれあった大切な揖斐川を守るために、森と川の関係について学んだ成果を発表した。

久瀬小学校では、「瀬音学級」と呼ばれるクラブ活動の中で、揖斐川とふれあう機会を設けている。単に水遊びだけでなく、ストーンアートや流木アートを行うことで川に親しみ、川を理解することができた。また、今回のカワゲラウォッチングでは、水生生物の採取をとおして、「私たちの揖斐川町がきれいであることを再発見でき、うれしかった。」と、その感想を語った。このような活動をとおして、身近な揖斐川に対して関心を呼び起こすきっかけとなった。

また児童達は、今年、揖斐川で発生した大規模な土砂災害に関心をもち、土だけのプランターと草が生えたプランターで、どのように水が流れるのかを実験した。水の勢いを弱め、きれいな水が流れる草が生えたプランターに比べ、勢いよく泥水だけが流れるプランターを見て、「山を守ることが、川を守ること」に繋がること分かったと発表した。

ふるさとの山を守るために先輩達が行ってきた植樹についても、苗木から育てるために、サクラの実をみんなで拾い集め、土をかぶせ、柔らかくなった実を揖斐川で洗い、現れたきれいな種を苗になるまでプランターで育てており、その他にブナやクルミを育てている。



発表の最後には、児童が壇上に並び、自分たちが育てている苗木を両手に掲げ、「豊かな森と山を私たちの手で育て、美しい揖斐川を守っていきたい。」と研究の成果を発表した。

（久瀬小学校による発表）

《講評》下垣真希さん（名城大学大学院講師・揖斐川水源地域ビジョン策定会議委員）



「坂内小学校、久瀬小学校の皆さんは、今日こうやって発表するためにたくさんの勉強をしてきてくれました。私は1学年17人という小さな小学校（岐阜県下呂市）に通っていましたが、私たちが子どもの頃は、川で何をやろうと別に勝手に、川の水がどうなっているのかなどということとはあまり考えることもしませんでした。ところが今の時代になってくると、川を守ろうという考え方を、こんな小さな世代から一生懸命勉強し、理論づけて理解することが大切になってきていますし、今回みんなが取り組んでくれたことは、1人1人の心に刻まれ、植え付けられ、必ずや身になってくれることだと思います。

いずれにせよ大切なのは、身近な川に親しみ、「この川大好き！」という気持ちの醸成なのだと思います。水に入って過ごす子どもたちのいきいきとした様子を拝見して、「坂内川を、揖斐川を守りたい。」という気持ちが起こるのは、小さな頃にふれあった経験が沸き立たせるのだと思います。どうかこれからもどんどん川と親しんで、良い経験を積み重ねていってください。」

3. 揖斐川町立揖斐川中学校（発表：5人）

【テーマ：揖斐川を知る】

揖斐川中学校では、「揖斐川と命」というテーマのもと総合的な学習の時間を使い、探求活動を行っている。特に1年生では「揖斐川を知る」と題し、「上下水道」、「用水」、「治水」、「水産業」の4つのカテゴリーに分かれて学習をした。各カテゴリーでは、校区を流れる揖斐川に携わっている地域の方々を講師に迎えたり、各自で調べたりすることで、揖斐川の水がどのように使われているのか学んできた。今回は、各カテゴリーでたどり着いた「だから揖斐川を大切にしなければならない」という主張点を会場の皆さんに発表した。

学習のスタートとして、生徒達は、国土交通省中部地方整備局 越美山系砂防事務所の神野所長を学校に迎え、森とダムと砂防の話聞いた。ここでは、洪水を防ぐための森林の必要性など揖斐川町の最上流の仕組みを学んだ。また、揖斐川の中流域の様子を国土交通省中部地方整備局 木曾川上流工事事務所の小林副所長を迎え、地域と一体となった川づくりの話聞いた。ここでは、水害を防ぐための河川管理について学んだ。さらに夏休みには、越美山系砂防事務所の好意により、揖斐川の上流見学会として、揖斐郡森林組合、横山ダム、徳山ダム、そして白谷崩落現場を見学した。

このような学習の後、生徒達は、揖斐川をさらに深く理解するために、「上下水道」、「用水」、「治水」、「水産業」のグループに分かれ、それぞれのテーマを掘り下げていくこととした。

「上下水道」のグループでは、揖斐川町役場上下水道課から職員を招き、話を伺った。結果、上水道は、揖斐川の水を浄化して飲み水とし、下水道は使用した生活雑排水を浄化して揖斐川に返すことを理解した。ここで大切なのは、私たちの身の回りにあるすべての水が揖斐川の恵みからもたらされており、「だから揖斐川を大切にしなければならぬ」結論に至った。

「用水」のグループでは、農工業用水をはじめとした「利水」全般を探求するために、揖斐川町の上岡島地内に頭首工を持つ西濃用水を見学した。揖斐川町から取水した用水が、広く西濃地域一円の農地に水を送り、遠くは養老町まで水が送られていることに驚いた。揖斐川が汚れば、西濃の農作物に悪影響がでることに気づいた。

また、中部電力西平ダムを訪れ、水力発電の仕組みを学んだ。水力発電は、発電量こそ少ないが、クリーンエネルギーの代表で、揖斐川の水が地球環境保全の一端を担っていることを理解した。

さらに、JAいび川 揖斐営農センターから技術指導員を招き、おいしいとされる揖斐のお米は、きれいな水と水はけの良い土地のおかげであることが分かった。

これらを総合すると、「地球環境」、「西濃地域の農業」、「揖斐の稲作」のためには美しい揖斐川が大前提で、「だから揖斐川を大切にしなければならぬ」結論に至った。

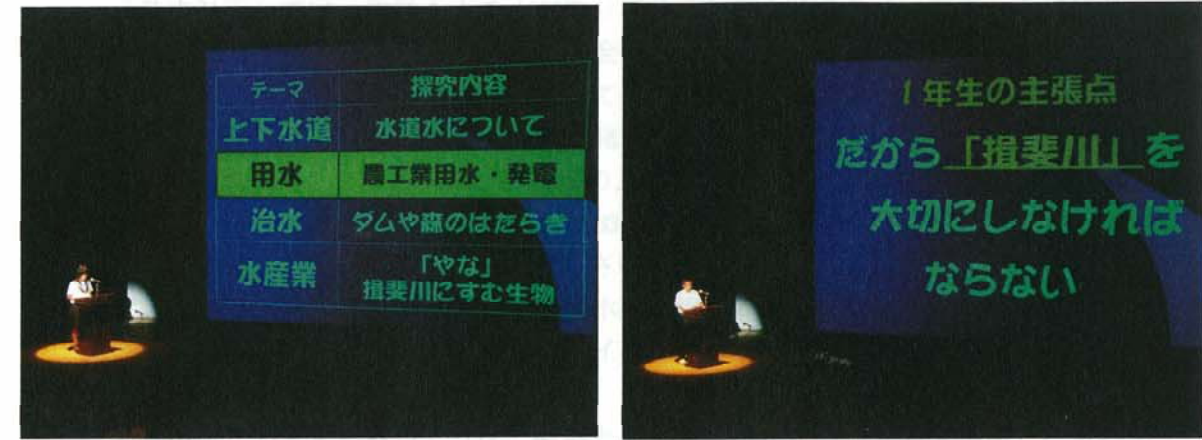
「治水」のグループでは、水害の歴史を理解するために、揖斐川町歴史民俗資料館の館長を招き、話を伺った。水害によって多くの犠牲者が出たことや、堤防を築くためにたくさんのお金がかかったこと、過去の大洪水を振り返り、その安全祈願から現在8月に行われる「川祭り」が始まったことなどを学んだ。また、先の国土交通省から教わった現在の治水の話も総合して、今も昔も多くの方々が揖斐川の安全を願い、また、川を治める努力をしてきたことを理解した。だからこそ今度は私たちが「揖斐川を大切にしなければならぬ」結論に至った。

「水産業」のグループでは、揖斐川に棲む魚や、伝統的な漁法について学ぶために、揖斐川中部漁業協同組合から講師を招き、話を伺った。揖斐川に棲む代表的な魚は、アユ、アマゴ、ウナギ、オイカワなどで、30～40種ほど生息しており、他の川に比べて多くの魚が生息していることが分かった。また、漁協では川の管理をする一方、捕るだけではなく、放流というかたちで魚が減らない努力をしていることを知った。また、揖斐川を代表する漁法として「やな漁」の仕組みについても学んだ。「やな」は大規模な仕掛けであるが、アユを捕りすぎず、仕掛けに使われる素材も竹や木、石など、天然の素材ばかりで大変環境に優しいことが分かった。

魚種豊富で豊かな揖斐川だが、漁協の方の話では、年々魚の数が減ってきているとのことであった。その原因は「川の汚れ」だそうで、川にはもともと汚れをきれいにする浄化作用があるはずだが、生活雑排水などの汚れはその浄化作用の範囲を超えていることが分かった。だから、豊富な水産資源を守るためにも、「揖斐川を大切にしなければならぬ」といった結論に至った。

各テーマに分かれ、多くの方々から話を伺い、揖斐川を知れば知るほどたどり着く「だから揖斐川を大切にしなければならぬ」という結論については、揺るぎない事実であると胸を張って主張し、併せて、多くの方々から聞けた話や、生き方に触れる

ことができたことは、私たちの大きな宝になったと生徒達は発表を閉じた。



(損斐川中学校による探求課題の発表)

③川サミット参加自治体紹介及び河川取り組み事例の発表

今回の川サミットに参加している全国の市区町村及び、損斐川流域市町、合わせて21自治体がスライドで紹介され、代表として昨年の「全国川サミット」の開催地である兵庫県猪名川町に河川取り組み事例を発表願った。

兵庫県猪名川町による取組事例発表

『清流猪名川を取り戻そう町民運動』～ホテルの生息調査～

【発表者 兵庫県猪名川町 企画部長 別当敬治氏】



「猪名川町が取り組む『清流猪名川を取り戻そう町民運動』についてご説明させていただきます。

まず、猪名川町がこの運動に取り組む経緯について述べさせていただきます。猪名川町では、町名ともなる猪名川について、近頃、町民から「川が汚くなった。」「最近子どもたちが川遊びをする姿が見られなくなった。」「川の水が減ってきている。」という声を多く聞くことができました。実際に、猪名川の水質については、全国でワースト5にあげられるほど汚染された地域もあるわけではございますけれども、猪名川町を流れる上流部に限って言わせて頂きますと、昔とさほど変わっていないといった現状でございます。

にもかかわらず、このように猪名川にマイナスのイメージを持つ方が多くなっていることを真摯に受け止め、「住民全員で何か取り組むことができないだろうか」と、そんな思いから町民運動を進めることとなりました。

町民運動を進めるに際しては、平成15年1月に、今後取り組む指針として、「雨水の活用」、「河川美化運動の推進」、「一定流量の確保」を目的といたしました「基本構想」を策定いたしました。その後、17年度に入り、より住民の参加が得やすいように、また、町民運動がさらに広がっていくようにと考え、「基本計画」を策定いたしました。「基本計画」では、15年に策定いたしました「基本構想」での取り組みをさら

に具体化し、目標年次を定めることで、より明確な計画としております。

「基本計画」では、住民1人1人が取り組める計画とするため、住民、各種団体、事業者が、連携を図る場として4つの部会を立ち上げ、それぞれの部会で住民の視点に立ち、自らが取り組める計画を検討しております。また本日、第15回の全国川サミットが開催されておりますが、昨年、猪名川町においても第14回の全国川サミットが開催されました。その際に、猪名川の上流に位置する4市町で「猪名川流域同盟」を結成し、今後は下流域の自治体にも参加を呼びかけ、流域全体での取り組みとなるよう、その輪を広げていったところでございます。

その他、後ほど紹介させていただきます「ホタルの生育調査」のように、親しまれる河川環境づくりをめざし、河川にまつわるイベントの開催や、自らが清掃活動を行うなどの取り組みを進めております。

猪名川町がめざすまちづくりは、町名ともなる猪名川が、誰からも清流と呼ばれるまちをめざしております。「清流猪名川」、「子どもが遊べる川」、そんな河川こそが、猪名川町が思い描く猪名川の姿でございます。



(雨水貯留タンク)

(雨水浸透施設)

この写真(上段)は、これまで「清流猪名川を取り戻そう町民運動」のなかで取り組んできたものでございます。これは、平成16年度から実施しております「雨水貯留タンク」と「雨水浸透樹」でございます。この取り組みは、限られた水資源をいかに有効に活用するか、河川の水量を一定に保つために地下の保水力を活かすことを目的に取り組んでいるものでございます。

「雨水貯留タンク」につきましては、これまで48件の設置助成を行い、この雨水を使って、車の洗車や、庭木の散水に利用しています。「雨水浸透樹」については、これまで実証実験として2件の助成を行っており、雨水を地下に浸透させることで、河川の水量を一定に保つことを目的とした取り組みでございます。この実証実験につきましては現在も調査中でございます。

この写真(次頁上段左)は、河川清掃の様子でございます。「清流猪名川を取り戻そう町民運動」とは、住民が主体となる活動ではございますが、平成14年度に町の若手職員によるプロジェクトチームを立ち上げ、その中から「職員でボランティアを募り、河川清掃を実施してはどうか。」という提案がありました。職員が率先して住民



(町職員による河川清掃)



(小学校と一体となった清掃活動)

運動を推進することで、活動が地域に浸透していく、また職員の意識も高まるといった考え方から、毎年行っています。今ではこのボランティア活動が地域と一体となり、さまざまな地区でも行われるようになりました。写真(上段右)は、阿小谷小学校と協力して清掃を行ったときの模様です。



(兵庫県立人と自然の博物館との協力協定)

次の写真(左)は、今年の3月に締結された「兵庫県立人と自然の博物館」との協力協定調印式の模様です、このような協定は兵庫県内では初めての試みで、博物館が所有する有形、無形の専門性や知識を活用して、自然環境の保全に向けた取り組みが生まれてくるものと期待しております。

この協定は、自然環境の保全に向けた取り

組みを核としながらも、「まちづくりに関する事項」、「学研究に関する事項」、「芸術文化の育成・発展に関する事項」その他、「今後の協力関係を深めていくなかで、新たに必要と思われる事項」について協力していくこととなっています。平成18年度の取り組みといたしましては、「清流猪名川を取り戻そう町民運動」の部会アドバイザーとして指導して頂くこととなっています。また、川との関わりを深めていく動機付けとして、町全域を対象に、ホタルの生育調査を実施しました。その結果を受けて、今後の活動の指標になればと考えています。

ホタルの生育調査についてももう少し詳しく説明させていただきます。調査区域は、猪名川町内の猪名川支流全域を対象といたしました。調査員は、町内外を問わず、町のホームページにて参加を呼びかけ、85人の方に協力して頂けることとなりました。調査に先駆けて6月19日に、「人と自然の博物館」の専門の調査員の方から、ホタルについての基本的な知識を教えて頂き、調査方法などを説明して頂きました。調査については6月19日から7月中旬まで実施して頂き、調査件数1,000件を目標に実施いたしました。

調査員には、子どもの参加も呼びかけていたこともありまして、登録して頂いた方全員に缶バッジ（下段左）を配布し、調査員として参加される記念品としました。また、夜間に調査を行うということもございまして、他のホタル鑑賞者と区分するためにも腕章（下段右）を作成し、安全面にも配慮いたしますと同時に、調査員としての気持ちを持って取り組んで頂けるようにいたしました。



（ホタル調査員：缶バッジ）



（ホタル調査員：腕章）

調査結果については現在集計中ございまして、本日、この場で報告することはできませんが、集計結果については町のホームページでお知らせする予定でございますので、是非ともご覧頂ければと思います。

今後の予定といたしましては、この調査結果を受けて、報告会の実施や標本作製、また町内のホタル分布図の作成をしていきたいと考えています。またその結果から、ホタルの数が減っていたり、ホタルの乱獲があるような状況であれば、場合によっては、「ホタル条例」を制定するなどホタルの保護を考えたり、コンクリートで覆ってしまうような護岸整備を再検討し、ホタルの棲みやすい環境整備を考えていきたいと思っています。また、ホタルという身近なものを町民運動の活動の指標にするなど、誰からも親しまれる河川整備を考えていくことも今後の課題と考えています。今回の調査でも、町内では多くのホタルが飛び交っていることが分かります。また普段、あまり見ることのなかった河川でもホタルが棲んでいたことが分かるなど、猪名川町には気付かずに眠っているまちの魅力が多くあると思っています。町民運動は、そんな猪名川町の魅力の再発見だとも考えています。

今回、このようにホタルの調査を実施いたしましたが、「清流猪名川を取り戻そう町民運動」での多くの話し合いの中でも、「清流」のイメージとは、「ホタルが飛び交う川」といった声が多くありました。「清流＝ホタル」といった関係が多くの人々の思いとしてあり、このような身近な存在でもあるホタルを、今後、町民運動を進めていく際の指標としてはどうかと考えております。最後になりますが、私たちがめざす「清流猪名川」とは、「ホタルの飛び交う自然豊かな川」、「子どもたちが川遊びのできる安全で魅力ある川」、「誰からも親しまれる川」といったものでございます。この町民運動が広く地域に根付いたとき、猪名川はすべての人々から親しまれる、そんな川になることを思い描いて、今後とも住民とともに取り組んでいきたいと考えています。

以上で猪名川町の事例発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。」

④サミット宣言

全国川サミット連絡協議会から参加している市区町村の代表が壇上にのぼり、会長の揖斐川町長より宣言が行われた（共同宣言文：以下のとおり）。

第15回全国川サミット in 揖斐川共同宣言文

木曾三川のひとつ揖斐川は、その源を揖斐川町の冠山に発し、山間渓谷を貫き、肥沃な濃尾平野を形成して伊勢湾に注ぎます。

「第15回全国川サミット in 揖斐川」は、総貯水量日本一を誇る徳山ダムの完成を目前にひかえた揖斐川町に集い、「川面に暮らし 川とともに生きる」をテーマに開催いたしました。

川が育む豊かな恵みを楽しみ、文化や伝統を築き上げてきた先人は、まさに川と共に生きてきました。近年の生活様式の変化で、ともすれば忘れがちな「川への感謝の気持ち」を私たちは再確認し、清らかな流れを次の世代へ引き継ぐことを共に誓い合い、ここに宣言します。

- 1 恵み豊かな清流を維持し 親水性に配慮した水辺空間を創造してその魅力の向上につとめます
- 1 先人の苦勞と歴史を教訓に 災害に強いまちづくりを推進し 安心して「川とともに生きる」ことができる郷土を築きます
- 1 未来を担う子どもたちに 川の大切さを学ぶ機会や 川とふれあう機会を積極的に提供し 河川愛護の精神を次代に引き継ぎます
- 1 流域の人々との連携を深め 共有するひとつの川を共に見つめ 考え 協力して より良い流域文化圏を築きます
- 1 美しい水と緑豊かな国土を創るため 「川面に暮らす」私たちは率先して 全国の川を愛する人々との 友好を深めます

平成18年7月29日

第15回全国川サミット in 揖斐川参加者一同
代表 岐阜県揖斐川町長 宗宮 孝生



左上：サミット宣言
全国川サミット連絡協議会
会長（揖斐川町長） 宗宮孝生



右上：サミット旗の受け渡し
揖斐川町から荒川下流域沿川自治体
代表へ

左下：次回開催地あいさつ
東京都江戸川区長代理
江戸川区土木部長 土屋信行 様

⑤サミット旗受渡、次回開催地あいさつ

全国川サミット連絡協議会の市区町村が壇上に上がり、共同宣言を披露した後、引き続き、全国川サミット連絡協議会のサミット旗が開催地の揖斐川町から、次回開催地の荒川下流域沿川自治体の代表である東京都江戸川区長代理（江戸川区土木部長）に引き渡された。次回開催地の代表によるあいさつの後、7月29日（土）谷汲サンサンホールにおいて開催された「第15回全国川サミット in 揖斐川～河川愛護の集い～」は終了した。

(3) 7月30日（第3日目）

川サミット記念碑の除幕（揖斐川町下岡島 下岡島河川公園）

「第15回全国川サミット in 揖斐川」開催を記念して、揖斐川町下岡島の下岡島河川公園に記念碑を設置し、全国川サミット連絡協議会の参加者とともに除幕を行った。



3. 記念事業

(1) 創作オペレッタ「水神」(7月28日～29日 揖斐川町中央公民館)

主 催：揖斐川町、揖斐川町川サミット水神実行委員会

主 管：揖斐川町文化協会

実施内容： 揖斐川町の昔話として伝承されている甚兵衛と岡島ヶ淵の河童の物語を題材に、脚本、作曲、出演者等スタッフのほとんどが揖斐川町民によって構成されている手作りの音楽劇。開催期間中の延べ2日間で約1,500名の入場があり、大盛況であった。

初日(28日)には、全国川サミット参加市区町村の方々も視察を行い、町民による熱いメッセージを全国に向けて発信することができた。



(創作オペレッタ「水神」の様子)

(2) 徳山ダムふるさと湖底コンサート(7月29日 徳山ダム湖底コンサート会場)

主 催：徳山ダムふるさと湖底コンサート実行委員会

後 援：国土交通省中部地方整備局、愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、
揖斐川流域住民の生命と生活を守る市町連合

実施内容： 平成19年度の完成を目前にした、徳山ダム堤体直上流側の湖底となる会場で「旧徳山村の皆さんへの感謝の場」として、「上下流の交流の場」として、また「日本一の徳山ダムをアピールする場」として「徳山ダムふるさと湖底コンサート」が開催された。

参加者は、移転された旧徳山村民をはじめ、揖斐川町内小中学生、全国川サミット参加自治体、一般観客など約6,000名にのぼり、午前11時より一般開放された会場では、「徳山ダム探検ツアー」や、地元物産展が20店舗軒を連ねるなど、にぎやかな雰囲気の中で催された。

式典では、未来を担う町内小学生(4年生以上、約800人)が、ロックフィルダムの盛立材料となるロック材(石)をダムに積み上げ、揖斐川町内中学生全員(約700人)と歌手の由紀さおりさん安田祥子さん姉妹との美しい大合唱が響きわたった。

催しの最後には、旧徳山村民による徳山踊りが披露され、ステージ前には踊りの輪が広がり、心に残るひとときとなった。



(小学生によるロック材盛立)



(中学生による大合唱)

Ⅲ. 効果等

今回、7月28日(金)から30日(日)までの3日間、「第15回全国川サミット in 揖斐川」を開催し、多くの住民、流域市町からの参加があった。

揖斐川町では、このイベントを開催期間中だけのものにしなためにも、事前に「徳山ダム出前講座」や「カワゲラウォッチング」などに取り組んできた。また、広く町民に参加していただくのはもちろんのこと、町民自らが川に対するそれぞれの熱いメッセージの発信源となり、全国にPRしていくための創作オペレッタ「水神」の開催や、徳山ダム完成を間近にひかえ、移転された旧徳山村民への感謝の場として「徳山ダムふるさと湖底コンサート」も開催した。いくつかの行事を、期間中に同時開催することで、心に残る、厚みのあるイベントに仕上がったのは言うに及ばず、各行事に関わった方々や参加された方々が、それぞれの思いや立場で、川に関して考えるきっかけとなった。

今回のイベントの中で、揖斐川町内の小学生や中学生には、サミットでの発表や湖底コンサートでのロック材設置、あるいは大合唱など、期間中、大いに活躍していただいたが、この日を迎えるために、事前学習や合唱の練習など、時間を割いて取り組んでいただいた。平成17年1月に6町村が合併し、新しいまちづくりに向けて取り組む当町にとっては、町内他校の生徒とともに、二度と立つことのできないダム湖底にて、同じ課題曲を大合唱し、また、「揖斐川」という地域を越えた共通の財産についてともに考えることが出来たということは、未来を担う子どもたちに対して、「新町の一体感の醸成」という観点からも、「川への感謝の気持ちの育成」という観点からも大きな成果があったと考える。

「合併まちづくり計画」において新町の将来像を「自然と歴史が育む ふれあいと活力のある健康文化都市」と定め、「自然にやさしい環境共生のまちづくり」を施策の柱のひとつとして位置づけている揖斐川町にとって、全国川サミットの開催は、はもっとも身近な自然である「揖斐川」をより深く見つめることのできるイベントであった。

今後、全国川サミットで採択された共同宣言を尊重し、「自然にやさしい環境共生のまちづくり」を推進していく。

(添付資料)

「第15回全国川サミット in 揖斐川」大会パンフレット、新聞報道(写し)